

# Lab.Times<sup>+</sup> vol.10

421Lab. 10th ANNIVERSARY



# 目次

## インタビュー記事 P.03-32

2010	01	421Lab. 学生運営スタッフ	P.03-04
	02	防犯・防災プロジェクト (MATE' s)	P.05-06
	03	ハッピーバースデープロジェクト	P.07-08
2014	04	食べる国際貢献プロジェクト TFT	P.09-10
2015	05	地域クリーンアッププロジェクト	P.11-12
	06	「ブンガクの街北九州」発信プロジェクト (発足時名:「文学の街・北九州」発信プロジェクト)	P.13-14
2016	07	平和の駅運動プロジェクト	P.15-16
	08	KITAQ∞『絆』復興応援プロジェクト (発足時名:東日本大震災関連プロジェクト)	P.17-18
	09	『食』から学ぼうプロジェクト (発足時名:食と農業学びの場プロジェクト)	P.19-20
	10	国際交流プロジェクト FIVA	P.21-22
	11	いぬねこプロジェクト (発足時名:学生いぬねこを守る会プロジェクト)	P.23-24
	12	子ども食堂応援プロジェクト	P.25-26
2017	13	青空学プロジェクト	P.27-28
	14	桜丘小学校学習支援プロジェクト	P.29-30
	15	まち美化魅力向上プロジェクト Clear (発足時名:三萩野バス停モラル・マナーアッププロジェクト Clear)	P.31-32

## まとめ・編集後記 P.33-34

※連携・受け入れ先 敬称略

※インタビュー記事はご本人への取材をもとに作成しております。

# 421Lab. 10th ANNIVERSARY

北九州市立大学地域共生教育センター (421Lab.) は  
2010年4月に設立され、  
2020年に10周年を迎えました。

「Lab.Times+」vol.9、ならびに vol.10 では  
この10年を振り返り、  
421Lab. の理念・歴史・地域での  
取り組みを紐解いていきます。

前号 vol.9 では 421Lab. の組織をまとめる  
運営スタッフを紹介しました。

本号 (vol.10) では、421Lab. で活動する  
15 のプロジェクト活動 (2020年度) を紹介します。

各プロジェクトの  
発足経緯や、どのような壁にぶつかり、  
いかに乗り越えて今の形があるのかなどを  
活躍してきたメンバーと  
現在のリーダーへのインタビューから  
探っていきます。

## 「プロジェクト (PJ)」とは…

プロジェクトとは、北九州市立大学地域共生教育センター (421Lab.) で行われている学生の地域活動です。  
421Lab. の中には 15 のプロジェクト活動があり (2020年度)、子ども向けの活動や環境保護活動など、  
プロジェクトごとにテーマと目的を持って活動を行っています。

## 421Lab. 学生運営スタッフ

～ 地域と学生を繋ぐ架け橋 ～



### プロジェクト概要

より多くの北九大学生に地域活動への参加を通して貴重な学びを得てもらうため、地域活動の魅力の発信と活動しやすい環境整備を行っています。北九大学生が地域活動に取り組み、自らの可能性を広げることができるように、広報誌の作成や研修会等を行っています。

#### \*活動開始時期

2010年

#### \*参加学生人数

45名（2020年度データ）

#### \*主な活動場所

北九州市立大学地域共生教育センター  
421Lab.  
北九州市内各所

### 421Lab. とは？

421Lab. は、北九州市立大学地域共生教育センターの通称です。地域の課題解決と学生の地域活動のサポートを通じて持続可能な地域の発展と次世代を担う人材育成に取り組む教育機関です。

活動のフィールドを地域とし、学生が北九州市内外にある課題に取り組むことで地域と大学がともに成長していく社会づくりを進めていく役割を果たします。

### 主な活動内容

運営スタッフは3つのグループで構成され、それぞれ次のような活動を行っています。（2020年度の役割）



#### ○プロジェクト支援グループ

421Lab. に所属するプロジェクトメンバーがよりスムーズに活動を行えるようにサポートしています。

その他にも次のような業務を行っています。

#### シフト業務

421Lab. に訪れる学生の対応を行います。外部からの電話対応なども行い、教職員と一緒に421Lab. を運営しています。

#### プロジェクトへの参加

学生運営スタッフ自身もプロジェクトに関わり、地域の課題解決に取り組んでいます。

#### 短期型地域活動の紹介、参加

短期型地域活動に参加したい学生のサポートを行います。学生運営スタッフも自分の興味関心や予定に合わせて参加します。



#### ○大学地域支援グループ

421Lab. と大学、また地域との繋がりを築くことを目的に活動しています。



#### ○Lab. 支援グループ

運営にまつわる様々な421Lab. のサポートを行っています。

## 先輩インタビュー



地域創生学群  
米村 捺月さん  
2014～2016 年度所属

最初は人とちょっと違うことをやったら面白いかなという思いから学生運営スタッフに入りました。きっかけは些細なものでしたが、入ってリーダーをすることで、周りの様子を気にかけるようになりました。私のリーダーの理想像は、自分で率先して何かをするというよりは、周りで動いているメンバーたちをよく観察して、活動している中でどういう問題が起こっているかに気づき、それを上手く発信できる人だと思っています。よって、周りの様子や一つの活動が今どうなっているかを気にかける、というのが新たに見えてきた視点です。また、周りの情報を吸収することは常に意識していました。自分自身が実際に参加していないプロジェクトについて、見えない部分がたくさんありました。そこで、その活動に参加している他の運営スタッフのメンバーから聞くのもそうですが、私自身がラボに滞在し、自分の所属していないプロジェクトの打ち合わせの様子を見たり、プロジェクトのリーダー同士のやりとりを定期的に行ったりしました。

私が考える運営スタッフの目標は、運営スタッフや普段自分と関わりのない他のプロジェクトの方が困っている時に「あ、ちょっと運営スタッフさん教えて」と気軽に声をかけてもらえる存在になることだと思います。だからこそ、ラボにいる時は些細なことですが、ラボに来る学生さんやプロジェクトメンバーに挨拶をしたり、声をかけたりすることを心がけていました。そのような雰囲気作りはリーダーになってから意識していたことです。

## 現リーダーインタビュー



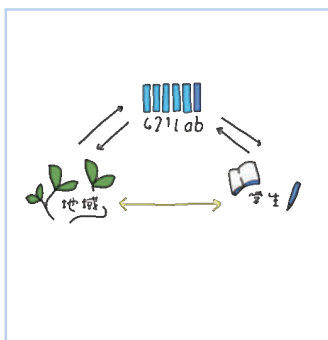
経済学部  
伊地知 里実  
2019～2021 年度所属

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で活動が滞ったり、活動ができても制限があったりするなど、大きな活動の変化がありました。それでもオンラインで企画を実施したり、Zoom を利用しミーティングを行ったりするなど遠隔での活動を始めました。今後は感染状況を見つつ社会状況に臨機応変に対応して、対面と遠隔それぞれの長所を活かした活動を行っていきたいです。

学生運営スタッフは地域と学生を繋げる役割を担っています。各プロジェクトや地域の悩みに対して今の状況で何ができるかを考え、率先して動くことで、より良い地域活動ができるようにサポートしていきたいと思います。

## 運営スタッフとプロジェクトについて

### 学生運営スタッフ とプロジェクト



421Lab. 学生運営スタッフは自らも各プロジェクトに属し、正式なプロジェクトメンバーとして他のメンバーと一緒に地域活動を行っています。

プロジェクトに所属するメンバーは、421Lab. とプロジェクトをつなぐ役割を担っています。運営スタッフがプロジェクトに参加することでプロジェクト内の課題や企画等の現状把握ができるとともに、運営スタッフとして支援することで学生の地域活動を充実させていきます。

## 防犯・防災プロジェクト (MATE' s)

～ 防犯・防災意識向上の  
" きっかけ " づくり～



### プロジェクト概要

北九州市を中心に「防犯・防災」に関する活動を行っています。活動内容は様々で、地域安全マップづくりや防災訓練、防災会議への参加など、行政と一体となって地域の人の安全・安心を考えるプロジェクトです。

### 発足理由

福岡県警の本部からの要請で北九州地区で防犯ボランティアを組織化することになりました。学生の周りで起こる犯罪に対し、学生が地域の方と一緒に防犯活動に取り組んでいこうということから発足しました。「自分たちで守る、自分たちのまち」をテーマに、地域から被害者を出さないまちづくり、自分たちがこのまちを守るんだという思いを地域全体が持てるようなきっかけづくりを学生や地域に向けて発信しています。

#### \*活動開始時期

2010年10月

#### \*主な活動場所

北九州市内の小学校  
市民センター  
朝倉市ほか

#### \*連携・受け入れ先

北九州市役所  
NPO 法人好きっちゃ北九州  
小倉南警察署、福岡県庁  
区役所、消防署

### 主な活動内容

#### あそぼうさい

防災を楽しく学ぶためにクイズなどを通して学んでもらう活動です。小学生と一緒に取り組んでいます。



#### 地域安全マップづくり

防犯についての活動です。小学生と一緒に地域安全マップを作り、どこが危険かなどを一緒に学びます。



## 先輩インタビュー



法学部  
近藤 涼太さん  
2014～2017 年度所属

私が最も力を入れた活動は、小学校で行った安全マップづくりです。私たちの代から新しく、区役所の生涯学習課とまちづくり協議会の地域の方、自主防犯の組織の方など今まで関わりがなかった方たちとも活動を始めました。その際に、関係を構築して活動を展開していくことに一番力を注ぎました。そして、安全マップづくりで学んだことを知識として身に付けてもらうためには、まずは学生自身がしっかり活動の内容や背景にあるものを理解することが大切だと考えました。そこで、この活動のベースになっている犯罪機会論の考え方や、こういった点に着目すべきなのかということも MATE' s のメンバーに伝える場を新しく作りました。また、小学生が理解しやすいように写真を交えて伝えるなどパワーポイントの内容を工夫しました。

プロジェクト活動に取り組む中で、メンバー同士活動の共有をすることで意思疎通を図れるようにもなりました。また、意思疎通を心がけたことで、受入先の方の要望にも応えることができるようになったと思います。

このような活動を通して、多くの人と一緒に活動していく中で自分の考えを伝える大切さ、積極性が身につきました。これらは社会人になった今でも活かしていることだと思います。

## 現リーダーインタビュー



経済学部  
吉崎 朱音  
2019 年度所属～

これまでの先輩方が確立してくださっていた安全マップづくりなどの活動や、受け入れ先の方々との関係性などが、今回のコロナ禍によってかなり不安定なものとなってしまったと感じています。現在所属しているメンバーも大半がまだ活動に参加できていない状況です。そのような現状を改善するため、オンラインでの勉強会や交流会を開き、対面活動時のための知識の習得やメンバー間の関係性の確立などを積極的に行っています。対面活動が実施されるようになった時、すぐに活動に対応できるよう、準備していきたいと思っています。



# ハッピーバースデー プロジェクト

～子どもたちが成長できる  
誕生日会を作るために～



## プロジェクト概要

児童クラブには保護者の仕事の関係で放課後を家庭で過ごすことができない子どもたちが多くいます。そのため、子どもに少しでも楽しくて特別な時間を過ごしてほしいという思いで、月に1回児童クラブを訪問し、自分たちでゼロから企画運営をする誕生日会を開催しています。

## 発足理由

放課後児童クラブの先生から、「毎月行っている誕生日会をもっと盛り上げたいので大学生に手伝ってほしい」と言われたことをきっかけに、子どもたちにとっても交流を通じて学びを得られる新しい場をつくりたいということで発足しました。児童クラブには保護者の仕事の関係で放課後を家庭で過ごすことができない子どもたちが多くいるため、少しでも楽しい特別な時間を過ごしてほしいという思いから活動を続けています。

### \*活動開始時期

2010年4月

### \*参加学生人数

10名(2020年度データ)

### \*主な活動場所

東朽網放課後児童クラブ  
北九州市立大学内

### \*連携・受け入れ先

東朽網放課後児童クラブ



## 主な活動内容

### お誕生日会

月に1回児童クラブに行き、その月のお誕生日の子どもたちに、手作りバースデーカードや文房具などをプレゼントしたり、全員で様々なゲームをしたりします。

### ぬり絵作り

2020年度はコロナウイルスの影響で活動を自粛しなければいけなかったため、外で遊ぶことのできない子どもたちに、家で楽しめるぬり絵をメンバーが手書きでつくって渡しに行きました。

### 季節ごとのメッセージカード

暑中見舞いや卒業カードを絵から文章まで手作りで作成し、児童クラブに届けました。



今後は、プロジェクトの目的や活動内容を大幅に変更し、『「楽しく遊べる遊び」を通じて、子どもたちに特別な時間を届ける!』を目的に、大英産業(株式会社)様とコラボした「北九州みらいキッズプロジェクト」(出張子ども大工)や、小学校でのレクリエーションなどの活動を行っています。



## 先輩インタビュー



経済学部  
山口 亜美さん  
2018～2020 年度所属

私たち大学生は、親や教師と違い、真上というよりも斜め上の頼れるお兄さん、お姉さんのような存在です。放課後の誕生日会の時間に大学生と関わることで、子どもたちが楽しく過ごせる、新しい特別な居場所になればいいなと思い活動してきました。そのため、お誕生日の子どもたちがリクエストした絵を描いたお誕生日カードを渡したときに、子どもたちの喜んでる姿を見てやりがいを感じました。

また、私たち大学生が子どもたちと一緒に成長できる場所にしたいという思いもありました。その中で、2018 年度に誕生日会で行った「ゴミの分別の仕方ゲーム」は最も印象に残っています。このゲームは、私たちの勉強にもなりましたし、子どもたちも楽しんでくれました。ゲーム終了後、あめの包み紙を「このごみはプラスチックだね」と言っていて、子どもからのフィードバックがあったことも良かったです。

私は高校まで地域活動やボランティアを全くしてこなかったため、大学では何かしようと思い、ハッピーバースデープロジェクトに入りました。そこで活動することによって誰かと一緒に頑張ること、みんなで一緒に協働してやることの素晴らしさに気づきました。また、冷静に落ち着いて物事を考えられるようになりました。

## 現リーダーインタビュー



法学部  
馬場 優佳  
2019 年度所属～

私たちは今年度(2021 年度)から名称を「ハッピーバースデープロジェクト」から「子どもプロジェクト」に改め、活動目的を『「楽しく学べる遊び」を通じて、子どもたちに特別な時間を届ける』として活動を行っています。約 10 年続いたプロジェクト名を変え、新たなプロジェクトとして発進しましたが、自分たちが子どもたちと接するのが好きで、子どもたちが楽しく過ごせる新しい特別な居場所をつくりたい、という根本的な思いはずっと変わっていません。そのため、新しいプロジェクトになったからといって活動方針や内容を変えていくのではなく、自分たちが元々のプロジェクトで培ったものをプラスの力として加えていけるようなプロジェクトにしていきたいです。



# 04

## 食べる国際貢献

### プロジェクト TFT

～ランチから始める

おいしい国際貢献づくり～



## プロジェクト概要

世界には 20 億人が肥満に苦しむ一方で、飢餓で苦しんでいる人が 10 億人もいて、食の不均衡が問題となっています。これを解決するために、大学食堂と連携してメニューを販売し、1 食につき 20 円を開発途上国の子どもたちに寄付金として届ける活動を行っています。

## 発足理由

特定非営利活動法人 TABLE FOR TWO INTERNATIONAL の活動に賛同した学生によって学内で結成されました。現在は「食糧の不均衡問題の是正」「大学生の国際問題への関心の向上」「メンバー一人ひとりの成長」を目的として活動しています。

### \*活動開始時期

2014 年 4 月

### \*主な活動場所

北九州市立大学

### \*連携・受け入れ先

北九州市立大学生協同組合

### \*参加学生人数

6 名 (2020 年度データ)

北方キャンパス北方食堂



## 主な活動内容

### TFT フェア

大学生協で "TFT メニュー" というヘルシーメニューを購入すると、一食につき 20 円が寄付されて開発途上国の子どもたちの給食になります (20 円は途上国の給食一食分)。

### 他大学調査

他大学にある、同じ TFT の取り組みを行っている団体と交流します。情報交換を行ったり、取り組んでいることについて発表しあったりして、お互いの今後の活動に役立てる活動です。

### SNS 広報

学内での広報だけでなく、SNS を通してたくさんの人に取り組みや現状について知ってもらい、認知度を上げるため、2020 年度から力を入れ始めました。食に関する事柄やフェアの広報、メンバー募集などを行っています。『食』から学ぼうプロジェクト (p.19-20) と合同でヘルシーメニューを考案し、調理過程を動画にして発信することも行っています。

## 先輩インタビュー



経済学部  
平良 慎太郎さん  
2018～2020 年度所属

プロジェクトリーダーになってから最も大変だったのは新型コロナウイルス感染症拡大下での対応でした。主な活動場所であった学内の食堂が休業し、それまでの活動の継続ができなくなりました。しかし、活動が制限されるというピンチをチャンスと捉え、以前から取り組んできた国際的な食の問題に関する勉強会を行ったり、他大学との交流などを企画しコロナ後の活動に生かすための準備をリーダーとして行いました。また私自身も、このような経験を通じて視野の広がりや活動に対する主体性を得ることができました。物事を考える際の主語が「自分」から「組織」に変わり、自分が引退した数年後の組織のために自分は今何ができるかという視点から行動することができました。さらに、キャリア形成に関してもプロジェクトでの活動は私に多くのことを学ばせてくれました。具体的なスキルやマナーはもちろん、組織で活動する意義とやりがい、社会のために自分に何ができるかなどです。

就職活動を終えて 421Lab. での経験を振り返ると、そのどれもが今のキャリア選択に繋がっていると思います。活動を通じて、自分のために組織のため、社会のためになっていきました。私にとってもそうであったように、後輩たちにとっても 421Lab. が自らの人生を選択するための学びを得る場になれば嬉しく思います。

## 現リーダーインタビュー



外国語学部  
川品 日向子  
2019 年度所属～

現在は6名の少人数で活動しています。様々な活動を同時に進めて行くことは難しいですが、その分一人ひとりが自分の仕事に責任を持ち、積極的に活動に参加しています。また、少人数だからこそみんなで意見を出し合い、協力しながらより良い活動になるよう日々取り組んでいます。

今後も TFT の活動を多くの方に知っていただけるように、学内外問わず、TFT や“食”に関する情報をポスターや SNS 等を活用し発信していく予定です。私たちの活動を通して、世界の食の現状について考えていただくきっかけになるよう、これからも頑張ります。



## 地域クリーンアップ プロジェクト

～ゴミも学びも拾おう！～



### プロジェクト概要

私たちは清掃活動を通じて地域を変えるきっかけ作りを目的に活動しています。主に大学周辺で地域の方と一緒に週に1回の清掃活動を楽しんでいます。また小倉北区馬島の漂着ゴミの清掃活動や島の魅力発信などにも取り組んでいます。

### 発足理由

大学周辺のゴミの多さに気づき、自分たち大学生でゴミ拾いをしたいという思いから、市民センターの館長さんと協働して清掃活動を行うことになりました。清掃活動で地域を変えるきっかけをつくることを目的として、大学生が地域の方と一緒に清掃活動をするプロジェクトが立ち上がりました。

#### \* 活動開始時期

2015年4月

#### \* 主な活動場所

北方校区  
小倉北区馬島

#### \* 連携・受け入れ先

北方市民センター

#### \* 参加学生人数

20名(2020年度データ)

### 主な活動内容

#### 定例清掃

毎週金曜日に北方市民センターを拠点にゴミ拾い活動を行っています。学生だけではなく、社会人や地元の高校生の参加もあって色々な人達と関わるところに魅力があります。

#### モノレール定例清掃

地域クリーンアッププロジェクトは、北九州グリーンバードという大きなグループの北方チームとしても活動しています。定期的に北方チームと小倉チームと一緒に活動し、モノレール清掃を行っています。

#### 藍島清掃活動

定期的に北九州の藍島に訪れ、漂流ゴミのゴミ拾い活動を行っています。藍島は小倉港から船で30分程の場所にあります。猫の島とも言われる場所で、猫や自然と触れ合いながら活動を行います。

※地域クリーンアッププロジェクトは、北九州グリーンバードという大きなグループの北方チームとしても活動しています。定期的に北方チームと小倉チームと一緒に活動し、モノレール清掃を行っています。



今後は、まち美化魅力向上プロジェクト Clear (P.31) とのコラボ活動を行っていく予定です。例えば、北九大の自転車放置の解決や廃棄処分される傘を再利用するといった活動を行っていきます。北九大を綺麗に、そして時代にそった学校にしたいと思っています。

## 先輩インタビュー



地域創生学群  
藤井 智寛さん  
2017～2019年度所属

私は学生時代、「green bird」の活動に最も力を入れました。green bird はゴミを拾いながらコミュニケーションをとるという趣旨なのですが、なぜそこにそのゴミが落ちているのか、なぜそこに捨てられるのかといったことをみんなで考えます。その中で1番の課題は、同じ場所に同じようなゴミが落ちているということでした。その解決策は「ゴミ拾いを続ける」こと。そうすることで捨てる人がいなくなり、きれいになります。また、green bird は北九州市内に北方・小倉・黒崎といったチームがあります。北方と小倉は大学の「実習」として活動しているため、雰囲気も活動もかたくなりがちですが、黒崎は純粋に green bird を好きな人が活動していると感じました。黒崎で活動すると声をかけてもらう頻度も高く、「この間やっているのを見たので参加してみたいです」というお声かけも多いです。

この活動は、ゴミを拾うことだけでなく、参加者同士の交流というところにも重きを置いています。一般参加者と活動を行っているからこそ、初めて来た方とのコミュニケーションのとり方に一番気を遣いました。その経験が今、自分の強みとして活きています。

## 現リーダーインタビュー



法学部  
伊礼門 叶  
2019年度所属～

地域クリーンアッププロジェクトではこれまで北方周辺のゴミ拾い活動を行ってきましたが、参加してもらった人の印象として、ゴミ拾いをするために参加されるというよりは、約1時間の短い時間の中でいろんな人と関わり、楽しく活動しているのでいい気分転換になっている人が多いと思います。これからもゴミ拾いという手段を使って多くの人をつなげていき、参加したいと思ってもらえるプロジェクトにしていきたいと考えています。また、ゴミ拾いだけにとどまらず、北九大周辺のコミュニティを強化できるような活動やイベントは積極的に取り入れたり、参加したりしていきたいと思っています。



# 「ブンガクの街北九州」発信 プロジェクト

～ 日常に文学を～



## プロジェクト概要

北九州市のブランドとして、文学の魅力を多くの方に発信していくために設立されたプロジェクトです。文学と聞いて「古いな」「難しいな」と思っている若い方をターゲットに、ゲームやイベントといった方法を使って、「日常に文学」を感じてもらえるような活動をしています。

## 発足理由

森鷗外をはじめとした多くの文豪が居を構え、今日に至るまで優れた文学者が数多く輩出されてきた北九州市では、その文化的資源を活かしながら街のにぎわいを創り出していこうという動きが進みつつあります。本プロジェクトはその活動の中心的役割を担う北九州市役所市民文化スポーツ局と共に、「文学の街」としての北九州市を内外に発信し、地域を活性化していくために発足しました。

### \*活動開始時期

2015年11月

### \*参加学生人数

10名(2020年度データ)

### \*主な活動場所

北九州市立大学内

北九州文学サロン

京町銀天街

京町を中心としたさまざまな地域

### \*連携・受け入れ先

北九州市役所

京町銀天街



## 主な活動内容

### 古本市

文学サロン主催の「とほほん市」に出店します。

絵本から専門書、文学作品まで様々なジャンルの本を販売します。

### オンライン語り場

プロジェクトメンバーがオンラインでそれぞれ好きな作品をプレゼンテーションします。

文学作品から漫画など内容は多岐にわたり、知見を深めるイベントになっています。

### 絵本作成

子ども向け、大人向けの2つのグループに分かれて制作活動を行います。

視覚的に文学を楽しんでもらうことを目標に企画しました。

### 推し本紹介

Twitterを活用して行う活動で、週3回に分けてメンバーがそれぞれ自己紹介と共に「推し本」を紹介します。

## 先輩インタビュー



文学部  
津隈 祐美さん  
2015～2017 年度所属

私が「ブンガクの街北九州」発信プロジェクト（以下ブンガクプロジェクト）の活動の中で感じたことは、プロジェクト活動にはお金や地域の人関わっており、責任や制限が伴うということです。特に、ブンガクプロジェクトは市役所と提携して活動を行っていたので、失敗したら大学だけでなく市役所の方の責任にもなってしまいます。また、面白いアイデアであっても制限により、やめざるを得ないこともありました。しかし、私はこれらの課題に「できることとできないことをはっきりさせる」ことで向き合ってきました。例えば、夏に京町商店街で行われる「千の灯り」というイベントで、森鷗外をモチーフにした光る切り絵を作成をする際に材料や加工機器が足りないという課題がありました。しかし、西日本工業大学さんのご協力を得て一緒に作成し、完成させることができました。私はこの経験から、単に制限の中に縮こまるのではなく、制限の中でも誰に協力を仰ぎ、何を作っていくかが活動において大切だと感じました。

ブンガクプロジェクトの今後の課題としては、文学の堅いイメージの払拭と文学的思想の維持とのバランスが挙げられます。具体的には、文学の堅いイメージは払拭したいけれど、「素の魅力も知ってほしい」、「全部払拭してしまえばそれはもう文学ではなくなる」という意見もあることです。難しい課題ですが、これからもバランスを意識して活動を行ってほしいです。

## 現リーダーインタビュー



文学部  
大熊 日菜子  
2019 年度所属～

北九州市生まれではない私は、文学が好きという理由だけでこのプロジェクトに参加しました。しかし、プロジェクトで活動を重ねていくうちに、地域の皆様との繋がりとこのものを強く意識するようになりました。それは、このページでもご紹介いただいた通り、ブンガクプロジェクトが地域に根ざした活動をしているからに他なりません。本の世界のみならず、人との関わりの中で成長することのできるプロジェクトだと実感しています。そんなブンガクプロジェクトは、北九州に「ブンガクの街」というブランドを作ることを目標に今年も活動に邁進して参ります。



## 平和の駅運動プロジェクト

～太鼓で”核なき世界を”

長崎街道を平和ロードに！～



### プロジェクト概要

「小倉が二度原爆から逃れたこと」「北九州市にいる学生だからできること」を念頭に、小倉祇園太鼓を用いて音楽で平和活動を行っています。広島原爆の残り火を自転車で小倉から長崎まで届ける活動を行うほか、小中学生に向けて平和について考える平和学習を行っています。

### 発足理由

もともと原爆投下の第一目標として小倉が挙げられていたという事実を重く受け止め、地域住民と平和を再考し、平和の尊さを再確認する場を有していくために発足しました。北九州市小倉に根付く文化「小倉祇園太鼓」を表現する方法として用い、文化的に平和と核廃絶を広く訴える活動を行っています。

#### \*活動開始時期

2016年4月

#### \*主な活動場所

徳力小学校

#### \*連携・受け入れ先

徳力小学校

#### \*参加学生人数

6名(2020年度データ)

西小倉小学校

西小倉小学校

北九州市、長崎市、鳥栖市

### 主な活動内容

#### 西小倉小学校平和学習

北九州市立西小倉小学校の6年生と一緒に平和学習を行っています。平和学習の内容は大学生が考えています。また、西小倉小学校の子どもたちと折った千羽鶴を長崎県城山小学校に寄贈しています。

#### 自転車リレー

8月9日から8月15日にかけて、学生が自転車を乗り継ぎながら小倉から長崎まで広島原爆の残り火を運びます。プロジェクトメンバーの団結力が高まります。

#### ピース動画制作

「コロナ禍でも多くの人に平和について考えてもらえる機会を提供したい」という思いから生まれた動画制作活動です。出演から撮影、編集まで100人を超える方々にご協力をいただいて活動しています。見る人の心を動かすピース動画はYouTubeにて公開しています。

動画タイトル：太平連 × ロマンダム「あなたにとって平和とは？」





## 先輩インタビュー



青い鯉代表  
小田 洋平さん  
社会人枠として参加  
小倉祇園太鼓の指導

私は指導の方で活動に参加していたのですが、その中で最も大変だったのは、創作平和太鼓を作ることでした。私は平和を考えている人たちに、「戦争の悲惨さなどを知ってもらい、今の平和の有難さについて考える機会を太鼓で表現したい」という思いがありました。この活動はすごく大変でしたが、平和活動に取り組む人たちは頑張っている、ということ伝えることができた実感しました。頑張った分だけ伝えることができるということ、学生たちの活動を知ってもらえたことが一番良かったです。また、各施設への挨拶や、太平連で自転車を漕いで長崎まで行くという活動もしてきました。その中で、立ち寄った各地の施設の方や戦争体験者の方のお話を聞く機会があり、人生の先輩である皆さんの様々な観点から人生経験を語っていただきました。その経験は、平和に関することも含めて、今までよりも自分の視野を大きく広げてくれました。

このように、私はこの活動の中で多くの経験をする事ができました。私は現在、個人事業を行っていますが、よく「何でも屋さんですよ」と言われるような仕事をしています。ごみの収集とか、的屋さんとか、焼き鳥屋さんとか、いろいろです。でも、そのいろいろできること自体、平和の駅運動プロジェクトでの経験がなければ、チャレンジすることがなかったと思います。私にもできることがあるのではないかと感じさせてくれる人と出会えたことが、今の仕事につながっていると思っています。

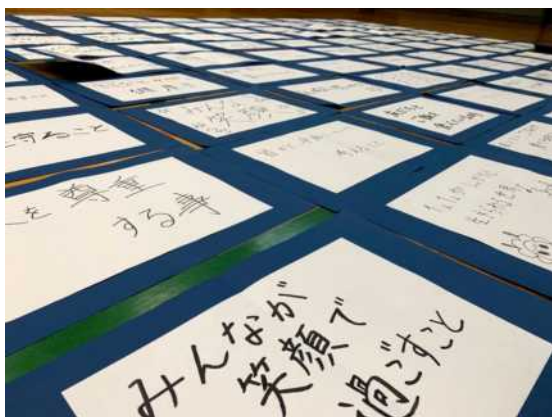
## 現リーダーインタビュー



地域創生学群  
田中 小晴  
2019年度所属～

私たちは従来の活動や新しい企画の立案・実施を通して主体性を持ち、さまざまな立場の人々と協働し、異なる意見を聞き、他者を理解する姿勢を持てるよう努めています。若者の視点から平和の大切さをどのように伝えていくべきかを改めて考え、その時代の状況や環境に合わせた企画の立案・実施を行っていきたくと考えています。

また、長崎に落とされた原爆投下の第一目標であった北九州の市民として平和への意識をより強く持つべく、学生自身が平和や戦争に対して学ぶ姿勢を大切にしていきます。現在に至るまで、自治体や企業、学校等と連携した平和イベントを行ってきました。10年以上の歴史がある団体ですが、これまで私たちと関わっていただいた方々との繋がりを今後も大切にしていきたいです。



## KITAQ∞『絆』復興応援 プロジェクト

～東日本大震災を忘れず、  
長い支援を！～



### プロジェクト概要

東日本大震災の支援を行うために発足したプロジェクトです。東北産のイカを使った「絆」焼うどんを各イベントや学内で出店し、売り上げの一部を寄付するなど、北九州からできる支援を行っています。また、東北だけではなく福岡県朝倉市や熊本への支援も行っています。

#### \*活動開始時期

2016年4月

#### \*参加学生人数

20名(2020年度データ)

#### \*主な活動場所

北九州市内

近隣の被災地

#### \*連携・受け入れ先

お好み焼き いしん

### 発足理由

2011年3月11日に発生した東日本大地震をメディアを通して見て、「自分たちにも何かできることはないか」という声が学生の中から多くあがりました。その声を受け、大学として東日本を支援していくためにこのプロジェクトが発足しました。



### 主な活動内容

#### 絆焼うどん

小倉魚町の「お好み焼きいしん」さんの協力のもと、夏祭りやイベントなどで釜石市のイカを使った「絆焼うどん」を販売し、その売上を寄付しています。2020年度はコロナウイルスの影響でプロジェクトとしては行くことはできませんでしたが、代表メンバーが釜石市に行き、直接市長さんに義援金を渡しました。

#### 被災地訪問

学生が被災地を訪問し、学生にできる支援を行います。

#### 421Lab. 学生プロジェクトとの交流

「子ども食堂応援プロジェクト」の方と一緒に活動し、子ども食堂の子どもたちにも絆焼うどんを作って一緒に食べています。

## 先輩インタビュー



地域創生学群  
大庭 亜実さん  
2014～2017 年度所属

私が最も力を入れた活動は、災害にあった現地への派遣活動です。私が1年生の時は、「何もわからないけれど、とにかく会話をし、話の中から何か一つでも得よう」というように、自分のことだけで一杯一杯でした。しかし、後輩が増えるにつれ、全体を見ることを意識するようになりました。現地では、使ってはいけない言葉などもあり、かなり場がピリピリしています。メンバーが会話の中で、使ってはいけない言葉をつい言ってしまった時には、毎回行う反省会で振り返りをします。あの言葉はもしかしたら傷つける表現になっていたかもしれない、明日はこう話してみようといったような感じです。このように、メンバーが活動しやすくなるようなサポートやメンバーをより良い方向に引っ張るということが本当に大変でした。

私は、大学4年間プロジェクト活動をやってきましたが、4年間で振り返ってみて、この活動をやってきてよかったと思えましたし、活動に本気なれたと感じています。派遣活動の第十次派遣は私が2年生の時に終了しましたが、私が4年生になった時に「仮設住宅から出て、もう一回我が家を見て直したので遊びに来ませんか」と派遣活動で知り合った方から連絡をいただき、プライベートで遊びに行きました。そういった関係性を築けたというのは、4年間通い詰めて本気で活動したからこそ得られたことだと思えて嬉しかったです。

## 現リーダーインタビュー



文学部  
日吉田 みずき  
2019 年度所属～

私たちのプロジェクトは現在、災害や豪雨の様々な被災地で幅広い支援を行うことを目的として活動しています。時間が経っても被災地には様々な課題が残っていることを知り、ソフト面のケアや風化防止の活動を大切にしています。受け入れ先である、「お好み焼き いしん」さんのご協力のもと、絆焼うどんを焼いて販売する活動も行ってきました。今後はこの活動に加えて、九州豪雨の被災地である朝倉市松末の特産品、「松末そば」に焦点を当て、より良い販売方法や新商品の開発を朝倉市の方々と協力して進めていこうと考えています。

復興にはまだまだ支援が必要であると同時に、今後も災害は起こりうるので、災害に対する意識や姿勢が学生の見本となるような存在でありたいです。



## 『食』から学ぼうプロジェクト

～若者の食に関する  
関心を高める～



### プロジェクト概要

若者の食に対する意識の低下を問題視し、現代人の食生活や健康の改善をテーマに活動を行っています。食についての知識を小学生や大学生に対して、ゲームや調理実習を通して得てもらったり、SNSを通しての啓発活動や、メンバーのスキルアップのために定期的に調理実習を行ったりしています。

**\*活動開始時期**

2016年4月

**\*参加学生人数**

15名(2020年度データ)

**\*主な活動場所**

北九州市内市民センター  
各自宅のキッチン

**\*連携・受け入れ先**

広徳小学校  
足原ピッコロ子ども食堂

### 発足理由

大学進学で一人暮らしを始める学生が多い一方、授業やアルバイトによる忙しさや経済状況により食生活が乱れ、不健康になってしまう学生も少なくありません。私たちは若者の食の貧困や食への意識の低さを懸念し、現状を解決する必要があると考え、若者の健やかで豊かな食生活を実現するためにプロジェクトを設立しました。



### 主な活動内容

#### 食べ物ランド・健康ランド

地元の小学校で行う食育活動です。子どもたち一人ひとりが関心を持って食育に取り組めるよう、ゲーム方式で楽しく学んでもらう企画です。

#### あしはらピッコロ

足原市民センターで行う子ども食堂の活動です。本プロジェクトが調理を担当し、子どもたちに提供します。子どもたちみんなが食べることができる献立を目指して調理しています。

#### 給食訪問

地元の小学校で、給食から昼休みまでの時間を子どもたちと過ごします。食の大切さを伝え、子どもたちがどのような食生活を送っているのか実際に見ることで、自分たちの活動について振り返ることができます。子どもたちの成長も直に感じることができます。

#### マイ弁当デー

メンバーの自炊の機会を設けるための活動です。お弁当はSNSに投稿し、学生の食に関しての啓発活動を行っています。

#### SNS 広報

啓発活動の他に、「食べる国際貢献プロジェクト TFT (p.9-10)」と合同でヘルシーメニューを考案し、調理過程を動画にして発信しています。

## 先輩インタビュー



地域創生学群  
佐藤 樹さん  
2017～2019 年度所属

プロジェクト活動は楽しいだけではなく、苦勞したことも多々ありました。中でも、プロジェクトメンバーが激減したことは私たちが抱えた大きな課題でした。このプロジェクトには、たくさんの思い入れもあったため、継続メンバーを増やして活動を続けていくにはどうしたら良いか、原因を見つめ直しました。以前の『食』から学ぼうプロジェクトでは、活動している目的が曖昧だったため、活動後に自分たちが「何を得たのか」が分からず、活動に対するモチベーションが下がっていました。そこで、目的の明確化、プロジェクトメンバー皆が何をしたいのかを話し合う機会を増やし、活動に対する満足度を高めていけるように環境づくりに努めました。そのおかげもあってか、継続してくれる人も増え、プロジェクトの人数も過去最大となりました。そのため、私がリーダーをしていた時は、新しい活動を始めことに力を入れました。新しい活動を取り入れる理由としては、今までの活動のマンネリ化の防止、プロジェクト活動の継続、モチベーションの向上を目指して欲しいということがあります。新しい活動と今までの活動を通して、プロジェクトメンバーには多くのことを学んで欲しいです。

## 現リーダーインタビュー



地域創生学群  
大楠 千晶  
2019 年度所属～

『食』から学ぼうプロジェクトは私が人として大きく成長できたとても大切なプロジェクトです。そう思うのは、私が1年生の時にリーダーを務めた「食べ物ランド・健康ランド」企画でたくさんの苦勞があったからです。リーダーはメンバーをまとめる他に何事にも責任を持って活動に取り組まなければいけません。企画を準備する中で、たくさん悩んで、たくさん失敗をすることがありましたが、多くのことを学びました。このような経験はこのプロジェクトに所属していないと得られない経験だったと今でも思います。

大切な仲間と協力し、かわいい子どもたちと関わりながら、地域のために活動できるという所がこのプロジェクトの魅力です。先輩方が築いてくださったプロジェクトを今後も大切にしていきたいと思ひますし、多くの学生が食への関心を持ってくれたら嬉しいです。

コロナ禍で活動に制限がかり、思うように活動に取り組めない中ではありますが、試行錯誤しながら自分たちのできることから食・健康の問題に対してアプローチしていきたいと思ひます。



# 10

## 国際交流プロジェクト FIVA

～笑って、学んで、楽しむ。  
北九州市で国際交流～



### プロジェクト概要

多文化共生をテーマに、日本に來られた留学生や研修員との交流を通して北九州（日本）の魅力を発信しています。具体的には小倉のまち歩きを一緒にしたり、餅つきや書道などの日本文化体験を企画したりしています。

### 発足理由

外国人住民が増加を続けている中、北九州市では多文化共生の地域づくりが求められており、市の基本構想・基本計画にも記されています。北九州市立大学でも留学経験のある学生が中心となり、JICA九州の協力のもと、九州国際大学や近畿大学、久留米大学など様々な大学の学生とともに、外国人研修員に対して、北九州でできる異文化交流等を通じた多文化共生の実施を目的に発足しました。

#### \*活動開始時期

2016年4月

#### \*参加学生人数

28名(2020年度データ)

#### \*主な活動場所

北九州市立大学

北九州YMCA学院

北九州国際技術協力協会（KITA）

北九州市内各所

#### \*連携・受け入れ先

北九州YMCA学院

北九州国際技術協力協会（KITA）

### 主な活動内容

#### スポーツフェスタ

小倉にあるYMCAの日本語学校の留学生とスポーツを通して交流しています。

#### 学生団体総選挙への応募

全国から集まった学生団体がそれぞれの活動や将来の姿を考えるオンラインコンテストに応募します。過去にFIVAは全国の上位100団体に選ばれました。

#### SNS活動

TwitterとInstagramを使い、広報活動を行っています。



## 先輩インタビュー



地域創生学群  
漆島 百萌さん  
2018～2020 年度所属

私は元々、国際交流に興味がありました。高校生の時から海外旅行に行っていた経験もあり、日本で国際交流ができることが自分にとって魅力的に感じたため、このプロジェクトを希望しました。自分の中で一番頑張った活動は、スポーツ大会です。リーダーとして初めて取り組んだ企画だったので、成功するかとても不安でした。しかし、中心メンバーと事前準備を入念に行ったおかげで、当日プロジェクトメンバーをはじめ、留学生にも楽しんでもらうことができ、すごく良かったです。後日、新聞やテレビでも取り上げていただきました。

国際交流に取り組んでいく中で、FIVA には「関係の継続」という課題がありました。一度限りの関係では交流を深めることができないため、継続的な関係を築くことが難しくなります。この状態では、私たちの活動目的でもある北九州市の魅力を発信していくこともままなりません。そこで SNS を活用したイベントの呼びかけやプライベートで一緒に遊ぶなど、再び交流を持てる場を設け、継続した関係を築いていけるよう取り組みました。

私は、FIVA で企画・運営をしていく中で、参加した留学生と関わりを持ち、北九州市を中心とした日本について自主的に学びました。また、相手の国についても深く理解できるようになり、多文化共生の心を育むきっかけにもなりました。相手の立場になって考えること、相手を思いやることは今のキャリアにも活かしていると思います。

## 現リーダーインタビュー



外国語学部  
奥田 凜太郎  
2020 年度所属～

僕がこのプロジェクトに参加した理由は、まち歩きなどのイベントをいろんな国の人と行うことが楽しそうだなと思ったからです。僕はこれまで海外留学経験もなく、外国人との交流もほとんどありませんでしたが、性格や文化の違いを知ることや、接したことのない人たちとコミュニケーションをとるのは新鮮で楽しそうだと思います。

新型コロナウイルスの影響で活動に制限がかかったり中止になったりと厳しい状況ではありますが、今後はメンバー間のコミュニケーションを図り、一体となって活動ができ、全員が楽しめて留学生との交流ができる企画をみんなで考えられるチームになっていきたいと思っています。



# 11

## いぬねこプロジェクト

～北九州の犬猫関係～



### プロジェクト概要

NPO 法人門司港レトリ口犬猫を守る会や NPO 法人ドッグセラピージャパンと一緒に、学生目線で北九州市の犬猫の殺処分をなくすための活動を行っています。また、ドッグセラピージャパンが行うドッグカフェでの「子ども食堂」に参加したり、セラピードッグのお散歩やしつけ訓練なども行っています。

### 発足理由

2020 年度、日本全国で犬や猫の殺処分数は約 3 万頭を超えています。その現状を変え、殺処分ゼロを目指すために、保護犬・保護猫の譲渡先を探す活動やペットを飼っている人・飼おうと考えている人に向けた啓発活動を行うことを目的として発足しました。

#### \*活動開始時期

2016 年 4 月

#### \*参加学生人数

8 名 (2020 年度データ)

#### \*主な活動場所

北九州市内の介護施設

ドッグカフェ「KATANODA」

北九州愛護センター

#### \*連携・受け入れ先

北九州市役所

ドッグセラピージャパン

NPO 法人門司港レトリ口いぬねこを守る会

### 主な活動内容

#### ドッグカフェ「KATANODA」でのお散歩・お世話

セラピー犬をめざす子犬たちのお散歩訓練やしつけ訓練をします。

#### 愛護センター訪問

愛護センターに直接訪問して、所長や職員の皆様と一緒に犬猫を取り巻く問題について考えます。

#### 懇話会の参加

愛護センターの取り組みや犬猫について、様々な考えを共有していきます。

#### KATANODA 子ども食堂

ドッグセラピージャパンの「犬がいる子ども食堂」という取り組みにスタッフとして参加させていただき、子どもたちの宿題のお手伝いや、夜ご飯後のイベント企画を行っています。

#### 譲渡会

門司港レトリ口犬猫を守る会で行われている譲渡会のお手伝いをする活動です。





## 先輩インタビュー



地域創生学群  
米村 捺月さん  
2015～2017 年度所属

いぬねこプロジェクトには、最初、現在も受け入れ先として一緒に活動させていただいている「門司港レトロ犬猫を守る会」の光武さんが421Lab. にボランティアの募集として来てくださったことがきっかけで活動していました。その後、活動を続けていく中で、光武さんと私たち学生の間で、これからも一緒に活動していきたいという話が上がり、421Lab. のプロジェクトとして立ち上がりました。

私は立ち上げた当初、他のプロジェクトのリーダーと掛け持ちしていたので大変でした。当時は掛け持ちをしている中で、どれだけしっかりと仕事ができるだろうかと不安に思っていました。できるだけ人に仕事を振っていくことで解決していきました。特に私たちの代は、少ない人数だったからこそ、一緒に話をする機会が増え、1年生の頃より仲が深まりました。そんな頼れる人たちが近くにいたことで、キャパオーバーにならずにプロジェクトリーダーとして活動することができたと思います。

## 現リーダーインタビュー



地域創生学群  
山波 郷華  
2020 年度所属 ~

私たちのプロジェクトは2020年度のコロナ禍から新スタートを切るため、2021年度のプロジェクト体制を整えることを目的に、現在、多くのミーティングを重ねています。2021年度は多くの新入生が加入し、活動の幅も広がると同時に、リーダーとして多くのメンバーが所属する1つのプロジェクトを動かしていくという大変さと責任感も出てきます。単にかわいいだけではなく、シビアな問題についてもしっかりと考えていけるような高い意識をもった学生として活動できるように、メンバーと共に学び、成長できる環境を作っていきます。

いぬねこが人に与えるパワーや影響はとても素晴らしいものばかりです。これからも「人といぬねこがより良く関わり合える環境作り」を目指して、多くの活動を行っていきます。



# 12

## 子ども食堂応援プロジェクト

～ 美味しい食事と子どもたちの  
心の支援を目指して～



### プロジェクト概要

仕事等で保護者の帰宅が遅くなる家庭での子どもたちの孤食を防ぎ、安心感を与える居場所を提供することを目的とした子ども食堂で活動しています。食事を提供するだけではなく、子どもと一緒に遊んだり学校の宿題をしったりと、様々な形で子どもたちに安心を提供しています。

### 発足理由

北九州市は仕事等で保護者の帰宅が遅くなるご家族の子どもたちの孤食を防止し、幸福感や安心感を与える居場所を提供することを目的として、「子ども食堂」のモデル事業を開始しました。親が帰宅するまでの間、子どもたちが「ただいま」と言える「第三の居場所」、子どもたちが多くの人たちと触れ合うことができる場所を目指して、子ども食堂での活動を行っています。

#### \*活動開始時期

2016年9月

#### \*参加学生人数

55名(2020年度データ)

#### \*主な活動場所

市民センター

(尾倉、日明、城野、  
小倉中央、大里南、足立)

#### \*連携・受け入れ先

日明元気もりもりハウス、子どもふれあい食堂あんず  
城野子ども食堂ハッピー、尾倉っ子ホーム  
足立ウチャヤマ子ども食堂絆キッチン  
北九州市立大学生協食堂

### 主な活動内容

#### 子ども食堂でのお手伝い(サポート)

子どもたちと一緒に遊んだり、ご飯を食べたり、学習のサポートを行ったりしています。また、クリスマスや節分などには子どもたちが楽しめるようなイベントを考え、実施しています。

#### SNSでの情報発信

主にTwitterでの情報発信を行っています。2020年度はメンバーや活動内容の紹介、活動写真や受賞の報告を行いました。

#### お手紙企画

2020年度は新型コロナウイルスの影響で活動ができなかったため、新たな企画としてメンバーで子どもたちへのメッセージやクイズ、料理のレシピなどを掲載したお便りを作成し、各子ども食堂へ配布しました。

## 先輩インタビュー



法学部  
佐々木 凜さん  
2017～2020 年度所属

私が印象に残っている活動は、2019 年度に「北九州子ども食堂サミット」で登壇したことです。近年、学生が子ども食堂にかかわることが増えてきています。そこで、学生だけで集まれる団体を作ろうということで、それについて「北九州子ども食堂サミット」の学生の登壇の場で話し、団体を設立する事ができました。悩むこともあり、プレッシャーもあって大変でした。しかし、このことが、人が足りない・人が偏りすぎているといった課題解決にもつながりました。

一方で、子どもの信頼を勝ち取るにはどうしたらいいかという課題もありました。これには、「褒め 8 割、厳しさ 2 割」のバランスを意識しました。実際に言葉選びのセンスや子どもたちへの伝え方のセンスがちゃんと身につくまで半年以上かかりましたが、乗り越えようと、より楽しいと思うようになりました。

子ども食堂を運営している人は大人の方が多いのですが、どちらかというと遊びとか勉強を教えるのは年齢的に子どもたちとその親世代のちょうど中間の大学生が向いていると思います。年上のお兄ちゃんとして大人より近い目線で子どもたちのことを考えられるし、子どもたちも大学生にしか話せない話があります。そういう話ができるというのは、大学生にとっても嬉しいことだし、子どもたちにとってもメリットだと思います。小さい頃にいろいろな人と話をすることで、性格や人格ができていくと思っているので、そういう成長の機会を与えることもできます。また、大学生が成長することもできるので、どちらにもいい効果があると思っています。

## 現リーダーインタビュー



文学部  
宮川 実来  
2019 年度所属～

2021 年度は更に子ども食堂の活動について地域の方々や大学の皆さんに知ってもらえるような取り組みを行いたいと思っています。学内での広報活動にもより力を入れていきたいと思います。

また、子ども食堂の活動目的は「子どもたちの孤食を防ぎ、第三の居場所を提供すること」です。だからこそ、コロナ禍で以前より活動が制限された中ではありますが、子どもたちにとって安心できる場所になるように感染対策を万全にして、私たち自身も楽しみながら子どもたちと関わっていきたくです。そして、活動拠点を広げ、今以上に様々な地域の方々と交流を深め、知見を得て先輩たちが作り上げてきた子ども食堂応援プロジェクトをより発展させていきたいと思っています。



# 13

## 青空学プロジェクト

～ 学生自らが実践する SDGs～



### プロジェクト概要

公害を克服し、現在も環境分野の最先端に行く北九州市、その北九州の環境への取り組みを若い世代（大学生や高校生）に知ってもらいたい。その架け橋としてイベントの企画や運営を行っています。

### 発足理由

「環境未来都市・北九州」はかつて甚大な公害問題を抱えていました。しかし、産学官民が連携し、郊外を克服した街として、現在は注目されています。この環境改善の経緯や資料については環境ミュージアムで展示・保管されていますが、当時関わった方々の証言をまとめた資料は少なく、更なる情報収集が必要です。そのため、北九州市の公害克服の歴史を体系的にもまとめ、保存するためのプロジェクト「青空学プロジェクト」が発足しました。

**\*活動開始時期**

2017年4月

**\*参加学生人数**

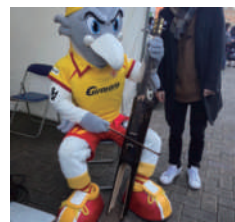
6名(2020年度データ)

**\*主な活動場所**

東田エコクラブ  
(里山を考える会)  
北九州市立大学

**\*連携・受け入れ**

NPO 法人里山を考える会



### 主な活動内容

#### 環境学習

公害を克服した街としての北九州の歴史や現在の取り組みなどについて勉強会を開いています。

#### 竹林整備活動 & 竹楽器作成

北九州市で竹林問題は大きな課題となっています。そこで、竹の廃材を使ってチェロ、ヴァイオリンなどの楽器を作ることで、竹林問題の解決を目指しています。

#### 海洋ゴミ収集 & 海ゴミアート作成

自分たちで集めたゴミを使ってアートを作ります。アクティブブックダイアログ (ABD) で海洋ゴミに関する知識を深め、活動を有意義に行っていきます。



## 先輩インタビュー



法学部  
森 美咲さん  
2017~2019年度所属

私はもともと公害に関心を持っており、北九州市は公害を乗り越えた街だということに縁を感じ、公害に関する活動を行っている青空学プロジェクトに入りました。私がプロジェクトに入った当時は、公害の歴史を風化させないことをテーマに活動をしていました。しかし、私が1年生の時(2017年度)に行われた東田サステナブル国際会議で、「あなたたちの活動は役に立っていますか。本当に地域に貢献していますか」と問われた時に何も答えられませんでした。今まで過去の公害をテーマにした活動が続いており、自分たちもその活動を継続してきましたが、「このままでは、公害の歴史は風化すると思いませんか」と問われて、自分たちの活動を見つめ直そうと思いました。今までの過去に目を向けた活動も大事ですが、これからは未来に目を向けた活動の方が有意義なのではないかと話し合い、活動方針を大きく転換することにしました。しかし、プロジェクトの方針を切り替えていくことは簡単ではありませんでした。考えることや負担が増えて活動に来ない人も出てきました。それでも私はみんなでプロジェクト活動をしたかったので、仲の良いメンバーを通じて活動に誘うよう声をかけたり、できるだけみんなの意見を汲み取って活動に繋がれるように工夫したりしました。そして、メンバーそれぞれが活動を自分ごとと考えられるようにすることで、みんなでプロジェクトを進めていくことができました。

## 現リーダーインタビュー



地域創生学群  
藤本 初音  
2019年度所属 ~

青空学プロジェクトは当初、「北九州市の公害克服の軌跡の風化防止」を目的に設立されました。現在は様々な方との出会いがあって、現北九州市の環境問題に対し、学生のSDGs実践を通して解決の糸口を探る活動を行っています。

活動は変わりましたが、その本質である「北九州市の人々に環境に関心を持ち続けてほしい」という願いはずっと変わっていません。私たちは、活動するためのアイデアの「種」を選び、撒くところから花を咲かせるまで、全ての工程を自分たちで考え、やり遂げることで、日々学びを得ています。それが可能な環境に感謝し、今後も北九州市の環境問題により良いアプローチをかけることができるように尽力して参ります。



## 桜丘小学校学習支援

## プロジェクト

～とにかく深く！

児童の学力向上に貢献～



## プロジェクト概要

大学生がアシスタントティーチャーとして小学生のクラスの中に入り、先生の授業サポートを行います。学校・家庭・地域が一体となって教育活動に携わることを目的としているプロジェクトです。

## 発足理由

文部科学省のモデル事業で採択された小学校から依頼を受け、当時の北九大文学部の黒田耕司教授が中心となり、桜丘小学校で授業の準備やお手伝い、休み時間の子もたちとの交流、放課後の学習サポート等を行うスクールボランティアとして発足しました。

## \*活動開始時期

2017年4月

## \*参加学生人数

3名(2020年度データ)

## \*主な活動場所

桜丘小学校

富野小学校

## \*連携・受け入れ先

桜丘小学校

富野小学校

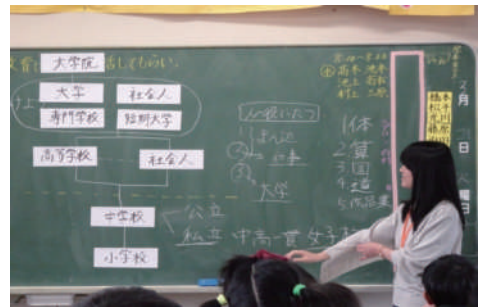
## 主な活動内容

## 学習支援

実際に学級に入って学習支援を行います。アシスタントティーチャーとして子どもの学習理解のサポートする役割を担っています。

## 放課後教室

放課後、子どもたちを集めて大学生が主体となって授業を行います。普段の授業とは違った雰囲気、子どもたちの関心に寄り添うことができます。



## 先輩インタビュー



文学部  
高橋 想さん  
2019年度所属～

私が活動の中で印象に残っていることは、桜丘小学校の5・6年生に向けて行ったキャリア教育の授業です。キャリア教育では、進路選択や生き方の選択肢としての大学を子どもたちに教える授業を行いました。勉強も大切だけど、こういう生き方があったり、留学にも行けたりするということを伝えました。授業が終わった後の子どもたちのキラキラとした目の輝きは今も印象に残っています。

学校の先生に「先生」というラベルがあり、子どもたちにとっては絶対的な存在だと思います。子ども同士の関係が横の関係なら、先生は垂直にいるようなイメージです。そのため、子どもにとっては信頼関係はあっても悩みや勉強の難しさについて相談しづらいイメージがありました。そういった教育の現場にいる大学生の私たちは、お兄ちゃんお姉ちゃんみたいな縦でも横でもない斜めの存在だと思います。

私は教師を目指していますが、活動に参加する際は大学生として現場に携わることで、子どもたちにとって話しやすく、悩みや勉強の話も親身に聞けるような身近な存在でありたいと思っています。

## 現リーダーインタビュー



文学部  
財津 梨花  
2020年度所属～

私はこの活動に参加して間もないですが、実際の授業に入ることによって多くの学びや気づきを得ることができています。子どもたちとの関わりから学ぶこともあれば、先生方の姿から学ぶことも多々ありました。

2020年度は新型コロナウイルスの影響により、できることも限られていて、今まで通りの活動を行うことができませんでした。しかし、そのような環境の中であっても、子どもたちのためにできることは何かを考えて行動に移すことを心がけたいと思います。また、勉強時間だけでなく休み時間や放課後を通して、子どもたちとの交流を深めていきたいです。



# 15

## まち美化魅力向上

### プロジェクト Clear

～課題解決で価値向上

Clear を目指して～



## プロジェクト概要

三萩野バス停のゴミ問題を解決するために、週に1回の定例清掃や啓発活動を行っています。

## 発足理由

高速バスの昇降口でもあり、北九州市の玄関口ともよばれている三萩野バス停にはごみが散乱しており、汚いといった印象を持たせるような状況で、とても利用者が気持ちよく使える場所ではありませんでした。このプロジェクトでは、清掃活動を通じて、三萩野バス停の価値向上を目指すことを目的として発足しました。

### \*活動開始時期

2017年6月

### \*参加学生人数

8名(2020年度データ)

### \*主な活動場所

三萩野バス停周辺

(その他学生が清掃活動したいエリア)

### \*連携・受け入れ先

株式会社ミクニ

## 主な活動内容

### 定例清掃

毎月数回、定期的に清掃を行っています。

### 定例ミーティング

毎週金曜日の昼休みに必ずミーティングを行い、活動の話し合いをしています。

### 株式会社ミクニとのコラボ企画

地元の企業である株式会社ミクニとコラボしてさまざまな活動を企画・実行しています。



clearのロゴですが、「c」は上向きに矢印がついていて、モラルマナーのupという意味で、「l」はキレイにしますという意味でほうきをモチーフにしています。「e」はつづりの真ん中なので、キャッチーにしたいと目をつけました。「a」はこれからもっと良くなってほしいという思いを込めてOKマークに、「r」はクリーンなイメージが地域に根付いてほしいという思いを込めて若葉のモチーフにしています。



## 先輩インタビュー



地域創生学群  
津野 詩音さん  
2018～2019 年度所属

まち美化魅力向上プロジェクト Clear には、「三萩野バス停のごみは減っているにもかかわらず、自信をもってキレイになったとは言えない」という課題がありました。活動当初、三萩野バス停をキレイにしてほしいという依頼からゴミ拾いの活動を始めました。しかし、次第にゴミ拾いだけではキレイにならないことに気づきました。なぜなら、地面に残っているガムの黒ずんだ跡やたばこの煙による壁の黄ばみなどの汚れなどがあったからです。

誰でも見た目がキレイな場所を汚すことは心理的に抵抗が生まれると思います。よって、そのような環境づくりをしなければならないと考え、「見た目」をキレイにすることを目指して活動しました。具体的には、地域の方にデッキブラシや高圧洗浄機などの備品をお借りして根本的な汚れの洗浄をしたり、市議会議員や警察の方々のお力を借りて放置自転車の撤去をしたりしました。また、活動目的を視覚化することと親しみやすさを意識したデザインのロゴも作成しました。このロゴで私たちの活動目的や活動内容をより多くの人に知ってもらうとともに、三萩野バス停やまちをキレイに保つ意識を持ってほしいと思います。

## 現リーダーインタビュー



法学部  
伊東 龍生  
2020 年度所属～

昨年度(2020年度)に新しい体制を構築し、活動を再開しました。まだ活動そのものが少ないため、実績を積み上げながらプロジェクトとしての形をしっかりと作ることが今の目標です。具体的には活動の対象にする地域の設定、毎年行える定例活動作り、コラボ活動のための他プロジェクトとの信頼関係などです。受け入れ先として共に活動して下さる、総合不動産会社の「株式会社 ミクニ」様のサポートやアドバイスを受けつつ、プロジェクトの目標である「北九州の魅力 UP」に向けて活動していきたいです。



これからの未来のために私たちができることを

# 421Lab.

で探してみませんか？



2号館 1階 OPEN 10:00~18:00



「Lab.Times<sup>+</sup>」10周年記念号では、「421Lab.の歴史を振り返る」というコンセプトのもと、前号のvol.9では421Lab.学生運営スタッフについて、そして本号のvol.10ではプロジェクト活動について取り上げました。421Lab.では、地域のさまざまな課題を解決することを目指して、数多くのプロジェクト活動を行ってきました。学生自らが何ができるかを考え、さまざまな地域課題に向き合っ  
て活動することが地域課題解決への小さくも第1歩となると確信しています。

ぜひ、あなたも421Lab.で地域活動を一緒にしませんか？

421Lab.でお会いできます日を楽しみにしています。

## お問い合わせ先

〒802-8577

北九州市小倉南区北方4丁目2番1号

公立大学法人北九州市立大学

地域共生教育センター（通称：421Lab.）

TEL: 093-964-4092 / FAX: 093-964-4088

E-mail: info421@kitakyu-u.ac.jp

ぜひチェックしてみてください!!



公式 LINE



公式 HP



公式 Twitter

# 編集後記

「Lab. Times<sup>+</sup>」 vol. 10 をお読みくださり、ありがとうございます。

本号では、421Lab. のプロジェクトの歴史をテーマに、  
プロジェクト活動を作り上げ  
地域活動に積極的に取り組んできた人に焦点を当て、  
10年間を振り返りました。

今回、取材などでさまざまなプロジェクトの方々に関わる中で、  
プロジェクト活動に対する思いや熱意を感じることができました。

本号を手にとってくださった皆様に  
活動してきた方々の熱い思いが伝わると嬉しいです。

「Lab. Times<sup>+</sup>」 vol. 10 が10年間のプロジェクト活動の理解と  
これからの地域と自分の未来について考える機会になりますように。

「Lab. Times<sup>+</sup>」 記念号の制作に協力いただきましたすべての皆様に  
感謝申し上げます。ありがとうございました。



大楠



茂呂田



山波



山下



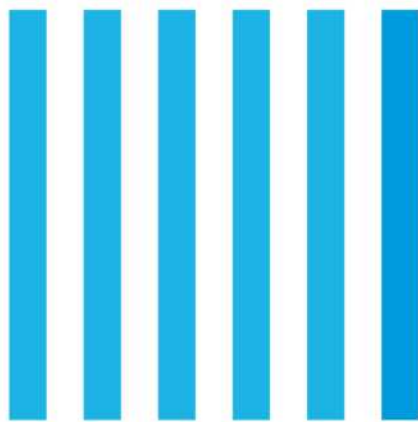
西村



平良



出光



# 421 Lab.

北九州市立大学 地域共生教育センター  
Regional Symbiosis Education Center

編集：北九州市立大学地域共生教育センター学生運営スタッフ

発行日：2021年12月

発行：北九州市立大学地域共生教育センター（通称 421Lab.）

Mail：info421@kitakyu-u.ac.jp